



太田 えいじ

■太田えいじ後援会連絡先 〒700-0824 岡山市北区内山下 1-11-1 中国電力労働組合岡山統括本部内
TEL:086-223-0352 FAX:086-221-7224

ごあいさつ

6月定例議会で審議した令和6年度6月補正予算は、一般会計で約91億2,100万円の増額となり、財源については、令和5年度決算により生ずる見込みの余剰金で対応します。主な事業としては、住民税非課税世帯等・子育て世帯加算給付金事業、地域公共交通利便増進事業などを実施します。

私が委員長を務める市民・産業委員会では、多目的屋内施設（アリーナ）の整備事業について検討・議論を行っております。現在は、施設規模の検討や、建設費・運営コストの算出等を進めている状況です。皆さんが利用しやすく地域のシンボルとなるようなアリーナとなるよう、取り組んで参りますので、皆さんから引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

6月定例議会 市民・産業委員会報告

多目的屋内施設（アリーナ）の整備に係る追加調査事業

Q. この事業はどういったものか？

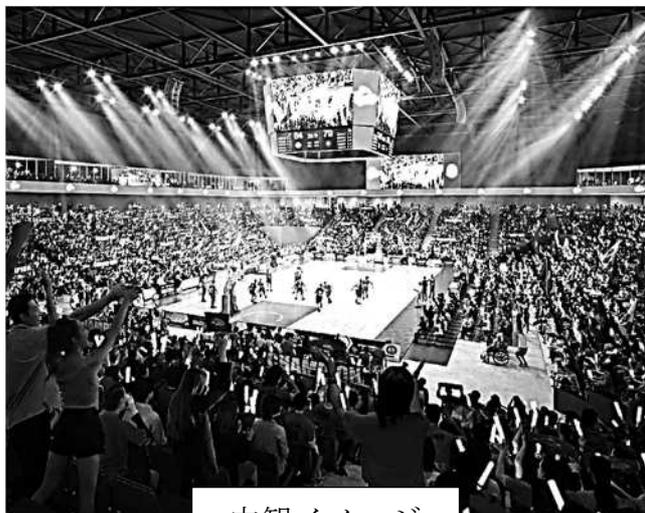
A. アリーナ整備における最適な施設規模等に関する追加調査を行うものです。

Q. 調査項目の内訳はどうなっているか？

A. 客席数などの適切な施設規模の検討や、照明・音響といった施設機能、建設費・運営コストの概算事業費の算出、事業採算性の検討、整備スケジュールの検討および、交通量調査などがあげられます。



外観イメージ



内観イメージ

Q. 現在候補地となっている土地の面積で、客席数の拡大は可能なのか？別の土地も含めて調査すべきではないか？

A. 市内中心部に近く、他に広い土地がないため、現在の候補地を活用してどこまでできるか調査したうえで、議論を行いたい。

Q. アリーナ整備について、市民の意見をどう聞いていくのか？トップダウンではなくボトムアップで市民感覚を吸い上げて方向性を示す姿勢が大切と考える。公設で進める以上、行政が市民の意見をしっかりと聞いたうえで、責任を持って進めてもらいたい。

A. 追加調査に並行し、アリーナについての市民アンケートを実施し意見の吸い上げを行います。

太田えいじホームページ
<https://otaeiji.jp/>



アリーナ整備の効果について

2024年6月5日、岡山市は単独で多目的屋内施設（アリーナ）の整備事業を進める考えを明らかにしました。このアリーナ整備ですが、事業を行うことで得られる効果についてご紹介します。

効果	内 容
地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、地域社会に貢献する意識の醸成	新アリーナ整備により、「スポーツで盛り上がる日常」を提供し、トップチームが岡山市のシンボリックな存在となることを通じて、地域への愛着と誇りの醸成が期待されます。
宿泊を伴う交流人口の拡大	新アリーナにおいてプロスポーツをはじめとした興行・イベントが開催されることにより、中四国地方における交通結節点としての立地特性を活かし、市内・県内での宿泊を伴う交流人口の拡大が期待されます。
北長瀬未来ふれあい総合公園周辺のまちの活力・賑わいの創出	公共交通の利便性がよく、周辺の商業施設や公園と連携した官民連携事業の展開によって、まちの活力・賑わいを創出することが期待されます。
市民・県民のスポーツへの参加機会の拡大	新アリーナでのスポーツ観戦やスポーツイベント、競技大会等の開催により、全ての市民・県民がスポーツを身近に親しむことのできる機会と場所を提供することで、スポーツを通じた人材育成や健康増進、地域交流等の促進が期待されます。
防災機能の強化	北長瀬未来ふれあい総合公園は、「岡山市地域防災計画」上の広域避難場所として指定されていることから、隣接する新アリーナと連携・機能分担することで更なる防災機能の強化が期待されます。

大河ドラマ誘致の取り組みについて

昨年11月に岡山市とおかやま観光コンベンション協会、岡山商工会議所を幹事に「戦国 宇喜多家を顕彰する会～大河ドラマ誘致を目指して～」を設立し、大河ドラマ誘致の取り組みを行っております。なぜ、宇喜多直家・秀家で大河ドラマなのか、「戦国 宇喜多家」ならではのポイントをご紹介します。

ポイント	説明
【宇喜多 直家】 ゼロからの飛躍と超大国との対峙	ゼロから独力で未来を切り拓き、経済を活性化して、一代で50万石の大名にのし上がり、織田と毛利の超大国を相手に立ちまわった人物は他にはいません。
【おふくの方】 女城主として子と領地を守る	直家の妻・お福の方は、毛利との国境確定交渉において秀吉に対しての影響力を発揮し、幼き秀家と家臣団を守り抜いたとされています。
【宇喜多 秀家】 大河になっていない最後の五大老	最愛の娘・豪姫を託されるほど秀吉に見込まれた秀家は、国内外の戦で活躍。西軍最大兵力で唯一徳川と矛を交えた、唯一大河ドラマになっていない「謎の」五大老です。
【豪姫】 夫と子孫を支え続けた愛は明治まで続く	秀家の妻・豪姫は、八丈島の夫を生涯案じ続け、去逝後も、秀家の子孫のために実家・前田家からの仕送りは明治維新时期まで続きました。
東京都島しょ部を含む全国が舞台！キリシタン文化も描く	戦国期の大河ドラマとしてあまり取り上げていない岡山や四国、九州、関西など全国に拡がり、特に八丈島など東京都島しょ部にスポットが当たります。また、戦国期のキリシタン文化を描く貴重な題材でもあります。